

女川町地域防災計画（総則編）新旧対照表

頁	改 正（新）	現 行（旧）
	目次	目次
	第1節～第7節 略	第1節～第7節 略
	第1編 総則	第1編 総則
1	第1節 略	第1節 略
3	第2節 女川町地域防災計画の方向	第2節 女川町地域防災計画の方向
	第1 基本方針	第1 基本方針
	1 略	1 略
	<p>2 災害応急対策、災害復旧・復興を迅速かつ円滑に行うための体制整備  災害による被害を軽減するためには、災害が発生した場合に、迅速かつ円滑に災害応急対策、災害復旧・復興を実施するための備えを十分に行う必要がある。</p> <p>そのため、高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保（以下「避難情報」という。）の情報伝達体制や観測体制の充実・強化を図るとともに、過去の災害対応の教訓の共有を図るなど、具体的かつ実践的なハザードマップの整備、防災教育、防災訓練や計画的かつ継続的な防災研修の実施、避難場所や避難路・避難階段の整備等、東日本大震災からの復興まちづくりで解決できなかった課題の抽出と対応を進める必要がある。</p> <p><u>さらに、事前復興計画を作るなど、復興事前準備を講ずる必要がある。</u></p>	<p>2 災害応急対策、災害復旧・復興を迅速かつ円滑に行うための体制整備  災害による被害を軽減するためには、災害が発生した場合に、迅速かつ円滑に災害応急対策、災害復旧・復興を実施するための備えを十分に行う必要がある。</p> <p>そのため、高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保（以下「避難情報」という。）の情報伝達体制や観測体制の充実・強化を図るとともに、過去の災害対応の教訓の共有を図るなど、具体的かつ実践的なハザードマップの整備、防災教育、防災訓練や計画的かつ継続的な防災研修の実施、避難場所や避難路・避難階段の整備等、東日本大震災からの復興まちづくりで解決できなかった課題の抽出と対応を進める必要がある。</p>
4	3～11 略	3～11 略
6	<p>12 迅速かつ円滑な復旧・復興</p> <p><u>災害復旧や災害からの復興に必要な事前準備を実施する。</u></p> <p><u>また、</u>被災地の復旧・復興については、被災者の生活再建を支援し、再度災害の防止に配慮した施設の復旧等を図り、より安全性に配慮した地域振興のための基礎的な条件づくりを目指す。</p> <p><u>災害により地域の社会経済活動が低下する状況に鑑み、可能な限り</u></p>	<p>12 迅速かつ円滑な復旧・復興</p> <p><u>被災地の復旧・復興については、被災者の生活再建を支援し、再度災害の防止に配慮した施設の復旧等を図り、より安全性に配慮した地域振興のための基礎的な条件づくりを目指す。</u></p> <p><u>また、</u>災害により地域の社会経済活動が低下する状況に鑑み、可能な限り</p>

頁	改 正 (新)	現 行 (旧)
	迅速かつ円滑な復旧・復興を図る。	迅速かつ円滑な復旧・復興を図る。
	第 2 略	第 2 略
7	第 3 防災体制の整備確立	第 3 防災体制の整備確立
	1 略	1 略
	(1) ～ (3) 略	(1) ～ (3) 略
8	(4) 農地等自然環境の保全	(4) 農地等自然環境の保全
	(イ) 町の <u>7</u> 割を山地が占め、そのほとんどが森林等の自然的土地利用となっている。	(イ) 町の <u>ほぼ 9</u> 割を山地が占め、そのほとんどが森林等の自然的土地利用となっている。
	ロ 略	
	2 防災施設・設備等の整備・強化	2 防災施設・設備等の整備・強化
	(1) 略	(1) 略
	(2) 安全に避難するための環境整備	(2) 安全に避難するための環境整備
	イ 現況	
	(イ) 国道398号の浦宿周辺は、排水処理施設の整備により道路の冠水被害が緩和されたが、雄勝地区側は、狹隘であり急カーブも連続した道路であり、大型車両とのすれ違いも危険な状況にある。また、 <u>令和 6 年に <u>出島大橋が開通したことにより、</u>出島の防災機能は格段に向上された</u> 。	(イ) 国道398号の浦宿周辺は、排水処理施設の整備により道路の冠水被害が緩和されたが、雄勝地区側は、狹隘であり急カーブも連続した道路であり、大型車両とのすれ違いも危険な状況にある。 <u>また、離島出島への架橋建設が工事中であり、令和 6 年に完成すると</u> <u>出島の防災機能の格段の向上が期待できる。</u>
	(ロ) 略	(ロ) 略
9	ロ 略	ロ 略
	(3) 略	(3) 略
	3 ～ 5 略	3 ～ 5 略
12	第 4 略	第 4 略
13	第 3 節 略	第 3 節 略
15	第 4 節 処理すべき事務又は業務の大綱	第 4 節 処理すべき事務又は業務の大綱
	第 1 女川町	第 1 女川町

頁	改 正 (新)	現 行 (旧)																																										
	1 ～12 略	1 ～12 略																																										
	13 ボランティアによる防災活動の環境整備・ <u>連携体制の強化</u>	13 ボランティアによる防災活動の環境整備_____																																										
	第2 ～第11 略	第2 ～第11 略																																										
21	第5節 女川町の概況	第5節 女川町の概況																																										
	第1 位置	第1 位置																																										
	<div>女川町は、宮城県の太平洋岸にあって、仙台湾の北辺に突出する牡鹿半島の付け根に位置し、東西18km、南北17km、総面積65.35km<sup>2</sup>の地域であり、その79.5%は標高456mの石投山を最高峰とする起伏に富んだ山地形により占められ、周囲は石巻市に接している。</div> <div>令和<u>7</u>年1月1日現在</div> <table><tr><th>方 位</th><th>経 緯 度</th><th>距 離</th><th>面 積</th><th>海岸線延長</th></tr><tr><td rowspan="2">東 端</td><td>東経 141° 36′ 23″</td><td rowspan="4">18km</td><td rowspan="8">65.35km<sup>2</sup></td><td rowspan="8">78.3km</td></tr><tr><td>北緯 38° 23′ 30″</td></tr><tr><td rowspan="2">西 端</td><td>東経 141° 23′ 58″</td></tr><tr><td>北緯 38° 25′ 11″</td></tr><tr><td rowspan="2">南 端</td><td>東経 141° 36′ 01″</td><td rowspan="4">17km</td></tr><tr><td>北緯 38° 23′ 02″</td></tr><tr><td rowspan="2">北 端</td><td>東経 141° 27′ 32″</td></tr><tr><td>北緯 38° 29′ 34″</td></tr></table> <div>国土地理院・宮城県河川課「海岸統計」</div>	方 位	経 緯 度	距 離	面 積	海岸線延長	東 端	東経 141° 36′ 23″	18km	65.35km <sup>2</sup>	78.3km	北緯 38° 23′ 30″	西 端	東経 141° 23′ 58″	北緯 38° 25′ 11″	南 端	東経 141° 36′ 01″	17km	北緯 38° 23′ 02″	北 端	東経 141° 27′ 32″	北緯 38° 29′ 34″	<div>女川町は、宮城県の太平洋岸にあって、仙台湾の北辺に突出する牡鹿半島の付け根に位置し、東西18km、南北17km、総面積65.35km<sup>2</sup>の地域であり、その79.5%は標高456mの石投山を最高峰とする起伏に富んだ山地形により占められ、周囲は石巻市に接している。</div> <div>令和<u>5</u>年1月1日現在</div> <table><tr><th>方 位</th><th>経 緯 度</th><th>距 離</th><th>面 積</th><th>海岸線延長</th></tr><tr><td rowspan="2">東 端</td><td>東経 141° 36′ 23″</td><td rowspan="4">18km</td><td rowspan="8">65.35km<sup>2</sup></td><td rowspan="8">78.3km</td></tr><tr><td>北緯 38° 23′ 30″</td></tr><tr><td rowspan="2">西 端</td><td>東経 141° 23′ 58″</td></tr><tr><td>北緯 38° 25′ 11″</td></tr><tr><td rowspan="2">南 端</td><td>東経 141° 36′ 01″</td><td rowspan="4">17km</td></tr><tr><td>北緯 38° 23′ 02″</td></tr><tr><td rowspan="2">北 端</td><td>東経 141° 27′ 32″</td></tr><tr><td>北緯 38° 29′ 34″</td></tr></table> <div>国土地理院・宮城県河川課「海岸統計」</div>	方 位	経 緯 度	距 離	面 積	海岸線延長	東 端	東経 141° 36′ 23″	18km	65.35km <sup>2</sup>	78.3km	北緯 38° 23′ 30″	西 端	東経 141° 23′ 58″	北緯 38° 25′ 11″	南 端	東経 141° 36′ 01″	17km	北緯 38° 23′ 02″	北 端	東経 141° 27′ 32″	北緯 38° 29′ 34″
方 位	経 緯 度	距 離	面 積	海岸線延長																																								
東 端	東経 141° 36′ 23″	18km	65.35km <sup>2</sup>	78.3km																																								
	北緯 38° 23′ 30″																																											
西 端	東経 141° 23′ 58″																																											
	北緯 38° 25′ 11″																																											
南 端	東経 141° 36′ 01″	17km																																										
	北緯 38° 23′ 02″																																											
北 端	東経 141° 27′ 32″																																											
	北緯 38° 29′ 34″																																											
方 位	経 緯 度	距 離	面 積	海岸線延長																																								
東 端	東経 141° 36′ 23″	18km	65.35km <sup>2</sup>	78.3km																																								
	北緯 38° 23′ 30″																																											
西 端	東経 141° 23′ 58″																																											
	北緯 38° 25′ 11″																																											
南 端	東経 141° 36′ 01″	17km																																										
	北緯 38° 23′ 02″																																											
北 端	東経 141° 27′ 32″																																											
	北緯 38° 29′ 34″																																											
22	第2 略	第2 略																																										
23	第3 気象 宮城県の気象は、東北気候区に属し温暖で住みやすい環境にある。 女川町内には女川地域気象観測所があり、隣接する石巻市には、石巻特別地域気象観測所がある。女川の平均気温は12～ <u>14</u> ℃、石巻では12～13℃とほぼ <u>13</u> ℃前後となっている。	第3 気象 宮城県の気象は、東北気候区に属し温暖で住みやすい環境にある。 女川町内には女川地域気象観測所があり、隣接する石巻市には、石巻特別地域気象観測所がある。女川の平均気温は12～ <u>13</u> ℃、石巻では12～13℃とほぼ <u>12</u> ℃前後となっている。																																										

頁	改 正 (新)	現 行 (旧)
	<p>降水量は、女川では年間<u>1,311</u>mm（令和<u>6</u>年）であるが、台風シーズンとなる8月は月間降水量が<u>170</u>mmを超えている。石巻では<u>7</u>月～<u>9</u>月は100mmを超え降水量が多く、沿岸に位置する女川町においてもこの期間は水害等の発生に注意を要する季節といえる。</p> <p>気象は、県内では比較的温暖な地域で、ここ5年間の平均気温は<u>13</u>℃、平均降水量は<u>1,288.9</u>mmとなっている。また、積雪日数は、県内では少ない方である。</p>	<p>降水量は、女川では年間<u>1,235</u>mm（令和<u>6</u>年）であるが、台風シーズンとなる8月は月間降水量が<u>200</u>mmを超えている。石巻では<u>6</u>月～<u>10</u>月は100mmを超え降水量が多く、沿岸に位置する女川町においてもこの期間は水害等の発生に注意を要する季節といえる。</p> <p>気象は、県内では比較的温暖な地域で、ここ5年間の平均気温は<u>12.22</u>℃、平均降水量は<u>1,394.1</u>mmとなっている。また、積雪日数は、県内では少ない方である。</p>
	第4 略	第4 略
24	<p>第5 交通</p> <p>女川町への主な交通網としては、東日本旅客鉄道㈱（以下、JRという。）石巻線（小牛田～女川）と国道398号が<u>挙</u>げられる。</p> <p>また、三陸自動車道石巻女川ICから車で約0.5時間の距離にあり、主要地方道女川牡鹿線及び県道牡鹿半島公園線（コバルトライン）が牡鹿半島を縦走している。</p> <p>公共交通機関は、JR石巻線（女川駅終点）、ミヤコーバス㈱が運行する路線バス及び第三セクターのシーパル女川汽船㈱が運行する女川町と江島間の定期航路があるほか、町民バスの運行を実施している。</p>	<p>第5 交通</p> <p>女川町への主な交通網としては、東日本旅客鉄道㈱（以下、JRという。）石巻線（小牛田～女川）と国道398号が<u>あ</u>げられる。</p> <p>また、三陸自動車道石巻女川ICから車で約0.5時間の距離にあり、主要地方道女川牡鹿線及び県道牡鹿半島公園線（コバルトライン）が牡鹿半島を縦走している。</p> <p>公共交通機関は、JR石巻線（女川駅終点）、ミヤコーバス㈱が運行する路線バス及び第三セクターのシーパル女川汽船㈱が運行する<u>離島</u>間の定期航路があるほか、町民バスの運行を実施している。</p>
25	<p>第6 土地利用</p> <p>女川町は、行政区域面積の59.8%である3,851haが都市計画区域に指定されており、都市計画区域のうち8.8%にあたる339.8haが市街化区域に指定されている。</p> <p>令和3（2021）年の市街化区域内の主な土地利用の割合は、住宅用地が15.6%、商業用地が4.2%、工業・流通用地が4.9%、公益施設用地が7.7%となっており、東日本大震災以前と比較して住宅用地、商業用地、工業・流通用地の割合が減少し、区画道路、公共空地、交通施設用地等の公益施設用地の割合が増加している。また、東日本大震災からの復興まちづくりで整備した住宅地においては、空宅地が見られる。</p>	<p>第6 土地利用</p> <p>女川町は、行政区域面積の59.8%である3,851haが都市計画区域に指定されており、都市計画区域のうち8.8%にあたる339.8haが市街化区域に指定されている。</p> <p>令和3（2021）年の市街化区域内の主な土地利用の割合は、住宅用地が15.6%、商業用地が4.2%、工業・流通用地が4.9%、公益施設用地が7.7%となっており、東日本大震災以前と比較して住宅用地、商業用地、工業・流通用地の割合が減少し、区画道路、公共空地、交通施設用地等の公益施設用地の割合が増加している。また、東日本大震災からの復興まちづくりで整備した住宅地においては、空宅地が見られる。</p>

頁	改 正 (新)															現 行 (旧)																
	地目別面積及び割合の推移															地目別面積及び割合の推移																
	各年 1 月 1 日現在 (単位 : ha)															各年 1 月 1 日現在 (単位 : ha)																
	区分 年	総面積	田 %	畑 %	山林 %	宅地 %	原野 %	雑種地 %	その他 %	区分 年	総面積	田 %	畑 %	山林 %	宅地 %	原野 %	雑種地 %	その他 %	区分 年	総面積	田 %	畑 %	山林 %	宅地 %	原野 %	雑種地 %	その他 %					
	令和元	6, 535	-	-	9	0.1	5, 446	83.3	217	3.3	46	0.7	192	3.0	625	9.6	令和元	6, 535	-	-	9	0.1	5, 446	83.3	217	3.3	46	0.7	192	3.0	625	9.6
	2	6, 535	-	-	8	0.1	5, 408	82.7	190	2.9	44	0.7	194	3.0	691	10.6	2	6, 535	-	-	8	0.1	5, 408	82.7	190	2.9	44	0.7	194	3.0	691	10.6
	3	6, 535	-	-	6	0.1	5, 393	82.5	164	2.5	42	0.6	199	3.1	731	11.2	3	6, 535	-	-	6	0.1	5, 393	82.5	164	2.5	42	0.6	199	3.1	731	11.2
	4	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2	4	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2
	5	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2	5	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2
	6	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	6, 535	-	-	6	0.1	5, 195	79.5	166	2.5	42	0.6	199	3.1	927	14.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
税務課：土地概要調査															税務課：土地概要調査																	
第 7 過去における災害の概要 女川町では、過去に地震、津波及び台風等の自然災害が度々発生しており、その被害は大きいものがある。 本町の過去における主な災害は、次のとおりである。 1 地震、津波の状況															第 7 過去における災害の概要 女川町では、過去に地震、津波及び台風等の自然災害が度々発生しており、その被害は大きいものがある。 本町の過去における主な災害は、次のとおりである。 1 地震、津波の状況																	
発震年月日 (津波の起こった年月日)					震源 (規模M)					災害の状況及び被害					発震年月日 (津波の起こった年月日)					震源 (規模M)					災害の状況及び被害							

頁	改 正 (新)			現 行 (旧)				
	昭和 8 年 3 月 3 日 (同上)	三陸沖 東経144. 7° 北緯39. 1° (8. 3)	最大波高 (尾浦2. 7m) 死者 1 名 全壊住家 3 戸 半壊 〃 9 戸	津波被害	昭和 8 年 3 月 3 日 (同上)	三陸沖 東経144. 7° 北緯39. 1° (8. 3)	最大波高 (尾浦2. 7m) 死者 1 名 全壊住家 3 戸 半壊 〃 9 戸	津波被害
	昭和35年 5 月23日 (昭和35年5月24日)	チリ 西経73. 5° 南緯38. 0° (8. 5)	最大波高 (女川4. 3m) 全壊住家147戸 半壊 〃 575戸 ほか水産、商工等被害大 被害総額2, 487, 523千円	津波被害	昭和35年 5 月23日 (昭和35年5月24日)	チリ 西経73. 5° 南緯38. 0° (8. 5)	最大波高 (女川4. 3m) 全壊住家147戸 半壊 〃 575戸 ほか水産、商工等被害大 被害総額2, 487, 523千円	津波被害
	昭和53年 6 月12日 (津波なし)	宮城県沖 東経142. 10° 北緯38° (7. 4)	半壊住家18戸 商工業被害大 被害総額1, 372, 791千円		昭和53年 6 月12日 (津波なし)	宮城県沖 東経142. 10° 北緯38° (7. 4)	半壊住家18戸 商工業被害大 被害総額1, 372, 791千円	
	平成15年 5 月26日 (津波なし)	宮城県沖 東経141. 8° 北緯38. 8° (7. 0)	一部破損住家 5 戸 土木、産業、公共施設被害有		平成15年 5 月26日 (津波なし)	宮城県沖 東経141. 8° 北緯38. 8° (7. 0)	一部破損住家 5 戸 土木、産業、公共施設被害有	
	平成15年 7 月26日 (津波なし)	宮城県北部 東経141. 2° 北緯38. 4° (6. 2) 同程度3回	一部破損住家 6 戸 土木、産業、公共施設被害有		平成15年 7 月26日 (津波なし)	宮城県北部 東経141. 2° 北緯38. 4° (6. 2) 同程度3回	一部破損住家 6 戸 土木、産業、公共施設被害有	
	平成17年 8 月16日 (同上・潮位変動)	宮城県沖 東経142. 2° 北緯38. 1° (7. 2)	最大波高 (女川28cm) 一部破損住家24戸 土木、産業、公共施設被害有		平成17年 8 月16日 (同上・潮位変動)	宮城県沖 東経142. 2° 北緯38. 1° (7. 2)	最大波高 (女川28cm) 一部破損住家24戸 土木、産業、公共施設被害有	
	平成22年 2 月28日 平成22年 3 月 1 日	チリ 西経72. 6° 南緯36. 1° (8. 8)	最大波高 (女川港1. 2m) 住宅床上浸水 1 戸、床下浸水 5 戸 店舗浸水78店舗、倉庫浸水 8 棟 養殖施設被害68施設		平成22年 2 月28日 平成22年 3 月 1 日	チリ 西経72. 6° 南緯36. 1° (8. 8)	最大波高 (女川港1. 2m) 住宅床上浸水 1 戸、床下浸水 5 戸 店舗浸水78店舗、倉庫浸水 8 棟 養殖施設被害68施設	

頁	改 正 (新)			現 行 (旧)		
	平成23年3月11日 (同上)	東北地方太平洋沖 東経142° 51.6' 北緯38° 06.2' (9.0)	最大波高 (女川14.8m) 死者575名 死亡認定者252名 全壊住家2,924棟 大規模半壊住家149棟 半壊住家200棟 一部損壊住家661棟	平成23年3月11日 (同上)	東北地方太平洋沖 東経142° 51.6' 北緯38° 06.2' (9.0)	最大波高 (女川14.8m) 死者575名 死亡認定者252名 全壊住家2,924棟 大規模半壊住家149棟 半壊住家200棟 一部損壊住家661棟
	令和3年2月13日 (津波なし)	福島県沖 東経141° 36.8' 北緯37° 41.7' (7.3)	一部破損住家5棟	令和3年2月13日 (津波なし)	福島県沖 東経141° 36.8' 北緯37° 41.7' (7.3)	一部破損住家5棟
	令和3年3月20日 (津波なし)	宮城県沖 東経141° 37.6' 北緯38° 28.0' (6.9)	一部破損住家2棟	令和3年3月20日 (津波なし)	宮城県沖 東経141° 37.6' 北緯38° 28.0' (6.9)	一部破損住家2棟
	令和4年3月16日 (津波なし)	福島県沖 東経141° 37.3' 北緯37° 41.8' (7.4)	避難所2箇所、避難者計12人 一部損壊3棟 水産、漁港、林業、公共施設、観光、土木被害有 被害総額248,197千円	令和4年3月16日 (津波なし)	福島県沖 東経141° 37.3' 北緯37° 41.8' (7.4)	避難所2箇所、避難者計12人 一部損壊3棟 水産、漁港、林業、公共施設、観光、土木被害有 被害総額248,197千円
26	2 略			2 略		
29	3 東日本大震災の津波の概況			3 東日本大震災の津波の概況		
	(1) 津波観測状況 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」により、東北地方太平洋沿岸をはじめとして全国の沿岸で津波が観測された。各地の津波観測施設では、福島県相馬で9.3m以上、宮城県石巻市鮎川で8.6m以上等、東日本の太平洋沿岸を中心に非常に高い津波を観測したほか、北海道から鹿児島県にかけての太平洋沿岸や小笠原諸島で1m以上の津波を観測した。また、津波観測施設及びその周辺地域において現地調査を実施し、津波の痕跡の位置等をもとに			(1) 津波観測状況 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」により、東北地方太平洋沿岸をはじめとして全国の沿岸で津波が観測された。各地の津波観測施設では、福島県相馬で9.3m以上、宮城県石巻市鮎川で8.6m以上等、東日本の太平洋沿岸を中心に非常に高い津波を観測したほか、北海道から鹿児島県にかけての太平洋沿岸や小笠原諸島で1m以上の津波を観測した。また、津波観測施設及びその周辺地域において現地調査を実施し、津波の痕跡の位置等をもとに		

頁	改 正 (新)	現 行 (旧)
	<p>津波の高さの推定を行った結果、地点によっては 10m を<u>超</u>える津波の痕跡が確認されている。</p> <p>女川町では、地震発生から約 50 分後の 15 時 35 分頃、女川湾口一帯で最大津波高 14.8m (県内最大)、最大浸水高 18.5m、最大遡上高 34.7m (県内最大) を観測したほか、町の浸水域は 320ha、被害区域は 240ha を記録した。</p>	<p>津波の高さの推定を行った結果、地点によっては 10m を<u>越</u>える津波の痕跡が確認されている。</p> <p>女川町では、地震発生から約50分後の15時35分頃、女川湾口一帯で最大津波高14.8m (県内最大)、最大浸水高18.5m、最大遡上高34.7m (県内最大) を観測したほか、町の浸水域は320ha、被害区域は240haを記録した。</p>
30	4 略	4 略
31	第 6 節 地震被害想定	第 6 節 地震被害想定
	第 1 ～第 3 略	
32	<p>第 4 地震調査研究推進本部による長期評価</p> <p>国の地震調査研究推進本部 (以下「地震本部」という。) では、海溝型地震や主要な活断層で発生する地震 (内陸地震) を対象に、地震の規模や一定期間内に地震が発生する確率を予測 (地震発生可能性の長期評価) している。この評価には、チリ地震津波などの遠地津波<u>は</u>含まれていない。</p>	<p>第 4 地震調査研究推進本部による長期評価</p> <p>国の地震調査研究推進本部 (以下「地震本部」という。) では、海溝型地震や主要な活断層で発生する地震 (内陸地震) を対象に、地震の規模や一定期間内に地震が発生する確率を予測 (地震発生可能性の長期評価) している。この評価には、チリ地震津波などの遠地津波<u>を</u>含まれていない。</p>
33	第 5 ～第 6 略	第 5 ～第 6 略
36	第 7 節 津波被害想定	第 7 節 津波被害想定
	第 1 略	第 1 略
	第 2 想定される津波の考え方	第 2 想定される津波の考え方
	1 略	1 略
	<p>2 <u>最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波</u></p> <p>最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波人命保護に加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、海岸保全施設を整備し、津波からの防護を図る。</p>	<p>2 <u>最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波</u></p> <p>最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波人命保護に加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、海岸保全施設を整備し、津波からの防護を図る。</p>
	3 略	3 略